

# 佐世保市の教育を考える市民会議

## 第2回議事録

### 第2回「佐世保市の教育を考える市民会議」会次第

日時：平成13年11月29日(木)19:00~21:00

場所：アルカスSASEBO

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 自己紹介と意見発表
- 4 協議
  - ・会議の進め方について
- 5 その他
  - ・全体スケジュール(案)
  - ・次回の確認
- 6 事務局連絡
- 7 閉会

#### 【理事】

それでは、ただいまより第2回の「佐世保市の教育を考える市民会議」を開催させていただきます。

早速ですが、会長の和田先生ごあいさつをよろしく願いいたします。

#### 【会長】

それでは、ごあいさつを申し上げます。

委員の皆様には、大変お忙しい中、そして本日はあいにくの天候でございましたけれども、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。それから、先日来、この市民会議で論じたいテーマ、会議の進め方について御意見の提出のお願いをしておりましたところ、先ほどの資料の中に入れておりましたように、「委員意見集約」をご覧いただきますとわかりますけれども、たくさんの有益な御意見を提出していただきまして、誠にありがとうございました。厚く御礼を申し上げます。

この後、開催通知をお願いしておりますように、1人3分という時間を限って大変恐縮でございますけれども、短い時間の中で自己紹介をかねて、日ごろ教育に関してお考えのことを先日提出されました委員の意見、あるいは、その集約を御利用いただきまして、会議の進め方について御報告、お諮りをいたします。まず、教育に関しての思いというのを御自由に発表をお願いいたしたいと思いま

す。

それから、前回の会議で申し上げました、論議になりました「情報公開について」でございますが、これは、正・副会長及び推進委員打ち合わせ会で話し合いをいたしまして、これから申し上げるような形で進めていきたいと思っております。これにつきましても、御意見が述べられておりましたが、一応これは、市の方でこういう情報公開というのをいろんなところでおやりになっている、そういうものとの並びの関係もございますので、今から申し上げるような形でこの情報公開については進めさせていただきたいと思っております。

この市民会議で、委員の皆様が出されます意見につきましては、議事録では個人名を出さないで、【委員】という形であらわしまして、インターネット上でも個人名を出さないで、それぞれの委員が発言されたという形で表現するようにしたいと思っております。なお、発表に当たりましては、その発言内容を前もってそれぞれの委員にお送り申し上げますので、御自分の発言については、チェックをしていただきたいと思います。

そういうことでよろしいでしょうか。

それでは、特に御異論ございませんでしたら、そういうふうにして進めさせていただきたいと思っております。なお、これからいろいろ御発言をいただくわけですが、これはもう十分御配慮をいただいていると思っておりますけれども、発言は特定の個人であるとか、機関・団体などの誹謗中傷というのは少なきつい言葉ですけれども、そういうことにならないようにひとつ御配慮の方をよろしくお願いしたいということでございます。

それでは、時間も限られておりますので申し上げますように、自己紹介をかねて意見発表に入りたいと思っております。先ほど申し上げたように、1人3分で恐縮ですけれども、お願いをすることによって、発表順については、さきの正・副会長打合せ会で、会長一任ということになっておりますので、私の方で司会を務めさせていただきたいと思っております。

それで、発言の順序をまず、学校関係の委員にお願いをいたしたいと思っております。先ほどの「委員意見集約」を見ていただいてもわかりましたように、学校について非常に関心が皆さん高いわけでございますが、まず、小学校、中学校、高等学校、大学、それからちょっと戻りまして幼稚園、保育園という順序で御発言をいただきたいと思います。

それでは、まず岩崎副会長に3分間で、模範的な御発言をお願いいたします。

#### 【委員】

それでは、皮切りで大変胸がドキドキしておりますが、よろしく願いいたします。大野小学校の岩崎でございます。よろしく願いします。

ことし4月から大野小学校の方に赴任しておりますが、一つの学校をお預かりしました以上、私は大変責任が重うございます。どういう学校づくりをするかというその思いは、学校の子どもたちを確認しながら考えていくわけですけれども、私はこう思っております。学校づくりというものは、子どもたちの実態をしっかり把握した上で、課題は何なのかということ进行分析しながら目標設定をしていか

なければいけないんじゃないかと。そういう意味で、この市民会議も佐世保市の子どもたちの実態、課題、そして、子ども大人が目指す子ども像というものを明確にしながらアプローチの仕方というのを考えていくべきではないかなというふうに考えております。私は、大野小学校をお預かりしまして、まず子どもたちが表現力が乏しいな、指示待ちだな、いろいろ問題点がございました。その中で、“ちょっと待ってよ”って思うことがございました。それは、子どもたちは昔も今も変わってないんじゃないかと。そこに資料をお配りしておりますが、そう思っております。もしかしたら、私たち大人が、家庭が、社会が変わったのかな。もっと家庭や地域と学校はしっかりスクラムを組んで子どもたちを育てなければいけないんじゃないかと考えました。そこで、子ども小学校は6か年でございますから、6年の学年の保護者のお母様、お父様方と個別に「校長を囲む懇談会」というのを開いていただいております。そこで、私の思いを十分に各学年へ伝えております。と同時に、今やっておりますのは、地域にも出ようよということで校区内にある各町内会、公民館の18か所を回らせていただいております。そのときの資料が、今お手元にお届けしている資料でございます。その中で、私たちはこういう思いで大野小学校の子どもたちを育てています。どうぞ大野地区全体で育てましょうということで、地域にお願いしたいこと、御家庭にお願いしたいこと、そして、学校はこういうことを頑張りますということで御説明を申し上げます。これは、図らずも、来年度4月からスタートする学校週5日制の問題と絡めながら、地域に、家庭に子どもたちをお返しする時間が大変多くなりますので、家庭、学校、地域の教育力の向上を願って、ただいまやっております。一つ具体例として、一番下に「大野小学校の取り組み」ということで、地域と家庭と学校が、あいさつ運動に今取り組んでおります。「だれでも、どこでも、いつでも、子どもたちに声をかけてください」と。これは安全管理、危機管理の面もございませうが、子どもたちを健やかに育てる最初の一步だと考えております。先ほど御案内していただきましたけれども、12月1日土曜日に、「学校開放デー」をいたします。28の講座に地域の方をゲストティーチャーとしてお招きして、子どもたちが体験学習をいたします。学力って何なの、学校週5日制が始まって学力落ちるんじゃない。じゃあ、学力っていうのは勉強だけかな、点数だけかな。総合学習って何なの、どういうことをするの、もしも皆さんがお考えでしたら、どうぞ12月1日に大野小学校に来て子どもたちの実態を、学校のありようを見ていただけたら大変ありがたいと思っております。

3分になりそうでございますので、この辺で終わらせていただきます。失礼します。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、酒井委員にお願いいたします。

【委員】

岩崎校長先生のすばらしい意見の後で、2番目という重い役、大変痛切に感じております。

現在、港小学校に勤務しております酒井と申します。私を含めて、岩崎校長先生、それから中学校の校長先生がお一人、教諭がお一人、4名の現職の教員が参加しておりますが、佐世保市には小、中学校合わせて1,300人ほどの教員がおります。私は、一個人として本会議に参加させていただいておりますので、それぞれの先生を代弁するような言葉は持っておりません。したがって、私が本会議で話をするのは、私自身が経験をしたり、耳にしたりしたことを私自身の責任においてお話するだけです。「市内の教員がこう思っている」ととらえられるのも困りますので、あらかじめ御了承ください。

さて、私ごとではありますが、この職につかせていただいてから15年が経過しようとしております。この15年の間、子どもたちを間近で見ていると、特にここ数年の様子が変わりつつあることを肌身で感じます。それは、岩崎校長先生がおっしゃったように、原因としては大人、いろいろな取り巻きがあると思いますが、本市の現状は、河上先生の著書の内容とは、ほど遠いものとは聞き及んでおりますが、子どもたちの生活態度、学習態度の悪化の傾向にあるというのは事実だと思えます。光武市長さんの言葉をかりるならば、大きな船はその方向に確実に向きつつあるのではないかという感じです。

私たち教師の仕事の大半は、子どもたちに学習を教えることにあります。私は、小学校の教師ですので楽しく学習してもらおうと思っております。十分とは言えないかもしれませんが、そのために努力をしているつもりです。実際に私の知る多くの教員は、そのために一生懸命努力をし、研鑽に努めております。先ほども申し上げましたように、私たち小学校教員は楽しさから学習に入ります。英語にすれば“fun”です。これを学習の中で“interesting”にすりかえ、学習の喜び、わかる喜びを伝えようとしております。しかし、ここ数年の子どもの変容に苦慮している私たちの姿があるのも事実です。“fun”が“fun”で終わってしまうのです。私たちの仕事は、授業を始める前段として、子どもに話を聞いてもらうということが必要になってきます。ところが、席に着けない子、話を聞けない子、すぐ怒り出す子、ささいなことに立ち直れない子、さまざまな子どもたちの姿があります。このことは、私たちにも責任があるでしょう。私たち教師自身まだまだ努力が必要なところも十分ございます。また、私は専門的ではないのですが、多動性の子、学習障害のある子がふえているというのも気になります。一つの病気として、理由づけすることで救われる子も十分おります。ただ、それだけでは済まされない部分も感じます。

本会議が「教育改革国民会議」をモデルとして発足されたことを考えると、周知のこととは思いますが、国にできることと一地方自治体にできることには大きな違いがあります。一市町村でできることはどんなことがあるのか、法的に、経済的に可能なことはどんなことなのかを考慮した上で、本市の子どもたちの健やかな成長のために、本会議が一石投じることができればと思っております。

以上です。(拍手)

【会長】

ありがとうございました。

それでは、続きまして、蛭川委員にお願いいたします。

【委員】

皆様こんばんは。私は中学校の方を担当しておりまして、中学校の代表としてこの場に出ておるわけですが、4月1日より新しく開校いたしました日野中学校に勤務しております蛭川でございます。

学校が開校いたしましてから約半年ほどたちますが、学校の立ち上がりというのがこんなに忙しいのかなと、そしてまた大変なのかなということをつくづく感じております。また、その大変さ、苦労の中に、ああ本当に一つ一つ基礎・基本をしっかりとやっておかないとこれから先、大変なんだということを痛切に感じてます。例えば、学校で行事を実施しても、全てが初めてのことでございます。相浦中学校と愛宕中学校から先生方も来ていただき、三十数名の先生が在職していますが、ほとんどが他地区の学校からお見えになった先生方で、一緒になって新しい学校を、新しい伝統をつくっていきこう、新しいいきまりをつくっていきこうと前向きに取り組んでおります。なかなか前進はしておりませんが、しかし生徒・先生も、そして、地域の方や保護者の方も大変学校に関心が高うございまして、その熱意には私たちもしっかりやらなくてはということで、全員で取り組んでおります。実は、私は3年ぶりに学校現場に戻ったわけですが、戻ってみて、感じたのは、やっぱり学校で子どもを育てることが学校の仕事だなということで、懸命に取り組んでいます。子どもをつくる前に親をつくらなくちゃいけないんじゃないかなと痛切に感じてます。6割、7割ぐらいの子どもたちが、かわいそうだなという感じがするんです。例えば、いろんな話があるのですが、子どもたちはいろんな荷物を背負いながら学校に来てるんだなと思いました。お家のこと、御夫婦のこと、また、経済的なこと、そして、私の校区には、自衛隊の官舎もございまして、つい先日からの外国への出航のことで子どもたちが、随分不安げな顔をしております。お父さんの話をするのを、ちょっと控えなくちゃいけないのかなと思ながらも、「元気してるか」と問えば、「元気にやっています」と言いながらも、やはり何か不安な顔をしている子どももいます。このようなことで、学校に来るまでの間にいろんなことを背負っているんだなと感じました。日頃先生方は、教室での授業の中のことだけ見て指導しがちなんですが、「子どもの後ろを見て指導してください。」と職員全体に言うんですけど、その子はその子なりに苦労をしておりません。しかし、それをすべて取り除こうと私は思っておりません。そういった苦労の中に、やはり将来きっと役立つ苦労がたくさんあるのではないかなと思ってるんです。でも、余りにもひどい状況のようなことがあるときには、先般からも児童相談所等にお話をしたりしながらお願いをしております。また、この会議の中でも少しずつ事例を挙げながら、お話をさせていただきたいと思っております。私はこの会議に出るに当たって、中学校の代表ということでございましたので、校長会の校長先生方や教頭先生方に中学校の意見をこの場で言う会議にしたいんだから、先生方の意見をぜひください。そして、私個人の意見を言うのではなくって、学校として、佐世保の中学校 22校でございますので、その学校の中でやっていること、そして問題を解決したいこと、そういったことをこの会議に出したい。お互いの小さな課題を話し合いをするサークルをつくらうという意見もあって、少し検討・協議させてもらい、そのサークルで話

題になったことを、ここで出していいのかなと考えております。

最後にですが、やはりどうしても今の子どもたちの「心づくり」をしたいと考えています。どんなにIT革命があって、いろんなことが進んでいこうと、この心だけは、私たち大人がつくってあげないといけないんじゃないかなということを痛切に感じております。では、心をつくるためにはどんなことをすればいいだろうか、みなさんと共に取り組んでいきたい。私たちの学校では「三つの心づくり」というのを決めまして、実践しようとしておりますが、まだまだ努力が要ります。子どもたちに本当の心を育てた後に卒業させてやりたいと考えて、日々実践している中学校の教師の一人でございます。

どうぞよろしく願いいたします。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

それでは続きまして加藤委員にお願いをいたします。

【委員】

失礼します。加藤尚美と申します。佐世保の中心部にあります旭中学校で教諭を務めておりまして、旭中学校に参りましてことしで4年目になりました。その前は、離島の中学校にいましたので、いきなり町の学校に来まして、非常に驚いたこともたくさんありました。やはり町の子と田舎の子、田舎ももう離島ですから全然違うなということを最初は思ったんですけれど、でも勤めていくうちに、やっぱり中学生はしょせん中学生であるというふうに感じる事が最近是非常に多くなっています。

お手元の資料に河上亮一先生の講演が8月にあったのがプリントされておりますが、その講演を私も聞きに行ったんですけれども、その中で、子どもが弱くなって、逃げるっていうのか、立ち向かわないっていうのか、そういったお話をされたんですが、そういう傾向は非常に強くなっていると思います。友達間でトラブルがあったら、先生か親が何とかしてくれるであろうと、解決してくれないかというような形で親に泣きつく、先生に泣きつく、そういった子どもは、非常に多くなっておるなということが、最近非常に感じる事です。それと、本校は、町の中にありますので、地域の方からよくいろんな情報がありますけど、中学生が六、七人集まっていると、それだけで地域のおじいちゃんとかおばあちゃんは何か怖いと。「集まっている」という通報があるわけですね。行ってみると、ただいるだけなんです。喫煙してるわけでもなければ、飲酒とか暴力とかそういったこと何にもない、ただいるだけなんですけど、中学生がそうやっていると、怖いというふうな言い方をされてしまう、それは誤解ではあると思うんですけれども、そういった誤解をされてしまう中学校というのは何なんだろうかというふうに感じまして、それで総合的な学習が昨年からは始まりまして、本校のテーマは「まちづくり」というテーマなんですけど、そのテーマの中で、先ほど、岩崎校長先生が、地域に出て行く学校の姿勢っていうお話をされましたが、本校も、せっかく町の中にありますから、それを利用してっていうのか、町の中に出て行く、そういう指導や教育ができないかということで「まちづくり」をテーマに総合的な学習に取り組みまして、今年度ですけれども、1年生と2年生が職場体験に行かせていただきました。1年生が校区内にあります戸尾市場、2年生が本校の校区と花園中学

校の校区になるんですが、四ヶ町のアーケードのお店の方に行ったんですが、その企業さんのアンケートの中で、「中学生に対する見方が変わったか」という項目があったんですが、やっぱり「受け入れてみて変わった」という意見が非常に多かったんですね。「中学生は思ったより悪くない」という意見をたくさんいただきまして、それは本当にありがたかったんですけども、そういうことをしながら、地域の中で、子どもたちを育ててもらえないだろうか。

3年前に自分は、社会教育主事の講習会で夏休みの間中、ずっと行かせていただいて九州大学で勉強したんですけども、その中で、自分は学校の先生というか、教員として学校の思い上がりがあるのじゃないかなということを強く感じました。学校は何でもしてあげられるっていうのは間違ってます。やはり社会、地域、親御さん、そういった人たちの力を本当に借りなければ、そういった力がなければ学校は何にもできないんじゃないのかっていうことを強く感じました。「学社融合」という言葉があるんですけども、学社融合という言葉の持つ意味とか、そういったものをこういう会議の中でお話をいただければ、その中で学校の役割というのは自然とはっきりしてくるであろうし、私たちが学校で何ができるのか、子どもたちのためにどんなふうにするればいいのか、そういったことがさらにわかっていくのではないかと感じておりますので、一生懸命頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、中山委員にお願いをいたします。

【委員】

佐世保北高の中山です。

市内には、県立の高等学校が7校あるんですが、その代表というよりも一個人として来ておりますので、どうぞよろしくお願いします。

今、佐世保北高の校長として4年目になります。県立高校の教員は、県内あちこち回りますので、中地区、それから長崎市内、対馬、壱岐を経験してこちらにやってきました。いろいろ考えることはたくさんあります。

今、高等学校は「県立学校教育改革基本方針」の具現化に向けて努力しているところです。私の学校でいえば、総合選抜が廃止された後、どういうふうな特色を出すかそれを明確にしようとしているところです。

教育について基本的に考えていること、今、求められていることは何か高等学校のレベルで考えていることを申し上げたいと思います。

まず、教育を考える大前提の一つに、教育は法的なレベルあるいは経済的なレベルと異なるものを持っているということです。ところが、現実には、教育は法的なレベルで考えられたり、経済的なレベルで考えられたりしている。我々は法律の世界に生きており、法さえ守れば別に罰せられることはないわけですけども、教育のレベルでいえば、法律をあるいは校則を守っておれば、あと何してもいいということにはならない。法律は利害損得で動く社会の最低のルールを示すもので、教育はその上の次元を目指すものだと思います。私は教育は幸せの実現が目標だと思っております。ただし、その幸せというのは、個人のレベルだけでなく社会的なレベルの両方の面

から考えていかないと個の幸せも実現できないというふうに考えております。教育を考えると時には、佐世保の中にあるいは県北の中に、あるいはその県の中でどういう役目を果たさなきゃならないかということを考える必要があると。一人ひとりの生徒を考えるのは当然なんですけど、もう一つの視点があるんじゃないかなと思うのです。

それから、2点目にですが、豊かな社会になって教育をどうすればいいのかということです。豊かであるということはいいことですがそれだけではもう幸せ実感できなくなってきたんですね。豊かであるということは、実はその教育を考える上では実はマイナスの部分がたくさんあるんですね。物が足りないと、それではどうするかということは、教育を考える上では大変重要なことだったんですが、そのいわば、彼らが動く動機というのがすべてが満たされたときに、生徒はどう動くかと、何を目指してどう動くかというのが、大変難しい状態になってきております。

それから、3点目に国際化とか情報化とかいうことが現実のものとなりつつあるなかで教育はどうすべきかということです。現在進行している状況は、この町で、この市で、県北で、県内でどう生きていければいいのかという範囲の問題ではもうなくなったんですね。求められているのは、佐世保の中で生きる力であり、そのためにはその世界の中で生きていくレベルの技術とか知識を持っていなければだめなんです。そのためには、やはりそれなりの教育が必要なんですけども、豊かな世界の中で、動く動機を失っている子どもたちを指導するのはなかなか困難性があります。具体的に挙げますと、二つやりたいと思っています。一つは「学びの改革」です。もっと勉強させたいと思っています。学力とは何であるかという問題もありますが、まず、きちっとした計算力とか知識とかいうのが必要だと思います。そして、その上に、それをどう使うかということが問題なのであります。まず基本的な知識と応用力を持っておかないとこの世界ではやはり太刀打ちできないなと思っています。世界の中で、過ごしていくためには、それはどうしても必要なんですね。それと、勉強というのは人生とか世界に直結していたはずなんです。本当は、そこからもう一度学ぶことの意味を考える必要があると思います。

2点目は、倫理の回復です。他者とともに幸せに生きていくための基本的な資質の回復をしなきゃならないと思っています。その倫理の回復のためには必要なのが、それが「ココロねっこ運動」として展開され、大変いいことだと思っていますけども、我々大人の問題なんです。子どもが育っていくこの世界の問題なんです。子どもが倫理性を身につけていくこの社会をもう一遍見直す必要がある。そこまで考えたときに、やはり佐世保市の教育を考えるこの会議というのは、大変意味があるなと思っていますので、せめて佐世保市がどうするかと、佐世保市の大人がどうするかということに、最後にたどり着ければ、大変いいことじゃないかなと思っています。

どうぞよろしくお願いします。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。ちょっと長くなりつつありますので……。

次は、安部委員にお願いをいたします。

【委員】

長崎短期大学の安部でございます。仕事は、保育学科におりまして、幼稚園や保育

園の先生を育てております。彼女たちが将来、お母さんにもなりますので、人を育てる人を育てるとというのが私のライフワークだというふうに思っておりますが、そういう立場で、教育を考えると、私は、先ほどから御意見もいろいろ出ておりますけれども、この佐世保の中で、私は、次世代育成力をどうやって高めていくかということとをみんなで考えていく必要があるのではないかと考えております。

最近、例えば子どもを産むこと、育てることに困難を生じる親とか自分の子どもにしか関心が向かない親とか、子どもたちの無軌道な行動にまゆをひそめることはあっても、温かい声をかけることをしなくなった地域住民とか、あるいは子育てを終わった後の人生は自分が楽しむことを強く望む熟年とか高齢者の人たちとか、そうしたミーズムの強い現代社会に育つ子どもたちは、私はかわいそうな存在だと思っております。私たちは、そういう子どもたちを何とか現状を批判するのではなく、少しでもよりよい方向に変化するため、一人ひとりが何を考えて何ができるかということを考えるべきではないかと考えておりますし、私は、この委員さんの中には、そういう次世代育成力を十分に備えて、実践のための方法論をたくさんお持ちの方がいらっしゃいますので、私たち一人ひとりに何ができるかということについての仕掛けについて話し合いたいと思っております。

それから、もう一つは子どもたちを見て感じることもなんですけれども、今、やる気がないとか、根気がないとか、か弱いとか、へこむとかいわゆるその生きる力の不足は、物質的に豊かになった社会の副産物だと我々は考えがちですけれども、世界がグローバル化し、国際的な競争力をより求める時代になった今、もっと彼らの可能性を引き出すことが必要になってくることを感じます。文部科学省で現在進んでおります教育改革の中にもこうした趣旨が盛り込まれているということは、皆さん御承知のとおりだと思います。そういう中で、私が子どもたちに、今の子どもたちに一番育ててやりたい心根ってというのは、私はやればできる、私にはいいところがたくさんある。心理学的に言うと、セルフ・エスティーム、自己信頼感、自己肯定感をどうやって育てていくかということとを大人たちが考えていかなければならないと思います。

まず、最初に、私は幼児教育が専攻でございますので、子どもの発達初期の家庭教育の重要性については、もう述べる必要もないのですけれども、特に、家庭教育が十分になされてない子どもに対して、どんな支援策があるか、これはもう児童福祉とタイアップして考えてみる必要があると思います。また、その社会教育学者の苅谷剛彦さんは、著書の中で、子どもの学ぶ意欲に階層差が広がっていることを指摘しておられます。その格差を狭めていくことが学校教育の制度や方法の課題であると言われてますけれども、学ぶ意欲に乏しい子どもってというのは、自己信頼感が十分に育ってないと思います。そのような子どもを支援する方策というのをぜひ公教育の中で考えていかなければならないと思います。これはいろいろ例が出ておりますが、教師以外の学習支援者、IT教材の利用による個別学習の機械の導入等に基づいた学力を伸ばすこと、それから、総合的な学習の時間を活用して、子どもの社会経験をふやす等が考えられますが、市においても、教育行政担当者に地域における特色ある学校教育実現のためのプランナーやコーディネーターの配置を私は強く望みます。さらに、これは本当に欲張りな話なんですけれども、アメリカ等は、もう寄附社会と言われてますけ

れども、教育を考えると、子どもを健やかに育てたいと思う大人がたくさん寄れば、理想をいえばですね、例えば、子ども育成財団等を設立いたしまして、基金の募集とか各種の人材の登録などを行う等が必要ではないかと思えます。

それから、私は、福祉の方の審議会の委員もさせていただいておりますが、教育と福祉を両方にまたがっておりますと、これは窓口を一本化できないものかということ等を常に考えております。これは、国などの大きな機関では、縦割り行政の弊害でなかなか実現できないというふうに聞き及んでおりますが、地方レベルでは、場合によっては可能ではないかと思って、そういうことを日ごろ考えております。

どうぞ、皆様方、またこの会議でいろいろなお話を深めていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、朝野委員にお願いをいたします。

【委員】

朝野と申します。こんな顔をしておりますので、2年間よろしく願います。座ってお話させていただきます。

私は、私立幼稚園側の人間として、ここの場に参加させていただく機会をいただいて、本当にありがたいと思っております。今、いろいろお話がありまして、子ども問題を挙げ始めたらきりがありません。そこで感じるのは、子どもにいろいろ問題が起きるのは、現象なのであって、原因はすべて大人の方にあるということです。では私たちが何ができるのかといったときに、私たち大人は、「昔は……」ってすぐ言い方をしていくわけです。

しかし、今の世の中を見ていったときに、例えば幼稚園でいえば、小さい子を外に遊ばせに行っちゃいけないと、母親に思わせるような時代になってきているわけです。また、平日の授業中に小中学生がお店で買い食いしてても、お店の人も大人もだれも注意しません。あるいは、今の時間帯だとそうなんですけど、子どもが塾で勉強して、晩御飯も家族で食べてない社会をつくってきてるのは我々大人です。ですから、こういうことを、例えば、地域であるこの佐世保の中で、我々が批評家ではなく、現場の人間として何ができるのかを考えていければいいなと思っております。

あと、幼稚園としてはですね、例えば、高校、大学の先生とは、あんまりお話する機会ないんですけども、中学校、小学校の先生とお話していくと、中学校の先生は「小学校が何とかしてくれんばね」って言うわけです。小学校の先生は「やっぱり幼稚園や保育園が悪かっさね」って話になって、幼稚園が後ろを振り返ったら家庭しかなかわけです。お父さん、お母さんに責任転嫁するだけでは解決になりません。だから、幼稚園に入る前の子どもたちの親子教室など試行錯誤で、地域開放、子育て支援活動を行っています。「就学前教育」が大事だというような言葉はいろいろ出るんですけども、お題目の状況になってます。だから、この2年間の中で、いろいろ幼稚園側からも情報発信していきます。例えば、自由保育が始まって子どもが荒れるようになったとかいう話もあるわけです。そういうのは、じゃあ幼稚園はどうなんだみたいなことを、サンドバックになるつもりでおりますので、ひとつよろしく願いいたします。

以上です。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

それでは、古峨委員にお願いいたします。

【委員】

少し緊張しておりますけども、失礼しまして座って話をさせていただきたいと思っております。

私は、佐世保市保育会の推薦を受けまして、この市民会議に参加する機会をいただいた者でございますが、公、私立合わせて、四十五、六ぐらいの保育園の仲間がおりますけども、私は一個人として、参加をさせていただく、そういう気持ちでいろんなお話を聞いたり、あるいは言わせていただいたりということを考えております。

私ごとではございますが、私は保育に携わって今23年であります。生まれは針尾というところで田舎の方でございます。ことしの4月から職場がちょっと変わりまして、崎岡というところで保育園の仕事をさせていただいておりますが、やはり針尾の純朴な地域と崎岡地区という人口が急増している地区の違いで、どうしても核家族というか、そういった保護者の方のお子様を預かる機会が多いようでございます。そこで、子育てに対する親様の考え方が違っております。例えば、預かってるお子様が、自分でこけた、そうしたときに、おでこにちょっとあざとか、けががあった場合に、針尾の親様は大してそう気にもとめられません。しかし、核家族でそういう初めてのお子様は、やはりどうしてもけがをさせないでくれという注文がございます。なぜかなと思いましたが、やはりそういう経験もないのかなと思うんですけども、私はそういう親様にはこうお答えします。「それじゃあお母さん、お父さん、けがをさせないということは、ただベッドの中に入れてていいんですか」とか、あるいは「柵をある程度仕切っちゃって、その中で保育をしていいんですか。しかし、それは本当の育ち合いにはならないでしょう」と。「本当の姿の保育にはならないんじゃないか」ということを、ちょっと説明をするとですね、わかってくださる親御さんも最近では徐々に出てきました。やはり、そういった姿勢というか考え方というのをきちっと今の親様の方に伝えるということが、やはり一番大事なことではないだろうかと思っております。

宿題で出ておりました河上先生の著書を読ませていただきましたけども、「子育ては子どもを捨て去ることである」というふうにも言われております。私にとっては、ショッキングな言葉だと思ったわけなんです。やはり人生、おぎゃあって生まれたら、死んでいけなくちゃいけないわけで、これは決まったことなんです。そういったことを親様とともに悩んだり、ともに考え、アドバイスを受けて、してあげたりということが大事なことはないだろうかと思っております。そして、人間は生かされているということを自覚できるか、感動を持ち得るか、これを手伝うことが子育てではないかと思っております。

話は飛びますけども私の校区である東明中で、今年も体験事業ということで、ワーキングプロジェクトということなっております。昨年、私も3か所の事業所の子どもたちの受け入れるお手伝いをさせていただきましたけども、やはりどうしても子どもたちはこれに行きたい、この事業所に行きたいといろんな考えた方があ

けども、確かに職場に対する考え方というのは、参加する前は甘いんですよね、何でもバーチャル思考というか、そういったことが先に立って観念論だけで行きます。実際、体験をして終わって二日あるいは三日たって達成したという喜びを持ったときにどうしてもそこに生きるっていう源というんですかね、きっかけというんですかね、そこを感じとって帰ってもらったような、私の方も受けとったんですけど、そういったことで終わりましたので、私は、そういう体験事業ということに対して、佐世保市のこの豊かな自然の中で、できる、佐世保市じゃないとできないようなこともたくさんあると思いますので、こういったことに力が注げたらいいんじゃないかなと思います。そのヒントとか皆さんの御教示を切にお願いしたいと思います。

以上でございます。(拍手)

#### 【会長】

どうもありがとうございました。

この次は公募委員の方に、御発言をお願いいたどうかと思っております。

公募委員の方、五十音順で御指名申し上げますので、そういうふうに御予定をいただきたいと思えます。その後、今度は地域の団体関係で委員として御出席をいただいております方に、御発言をお願いしたいということにさせていただきます。

それでは、しばらく御意見を述べるということが続けさせていただきまして、途中でどこかで10分ほどお休みをとらせていただこうと思えます。

それでは、公募委員の最初といたしまして、井手委員にお願いをいたします。

#### 【委員】

公募で委員にならせていただきました、佐世保高専の井手です。座らせていただきます。3分間ということですので。

私は、幼稚園のときに、今の韓国から佐世保に引き揚げて来ました。大久保小学校です。それから、55年間、佐世保に住んでおります。佐世保大好き人間です。もう佐世保の教育をということで話をさせていただきます。教職は来年で40年になります。それで、短い時間ですので、私のプロフィールを申します。

家族は夫婦と子ども3人です。今、家には私が愛する妻がおります。そして、3人の子どもが今34歳、31歳、29歳です。頑張っております。今、佐世保高専で物理をやっております。非常勤で長崎総合科学大学で教師になる学生を教えております。21世紀の教育を背負う教師になるんだから、しっかりせんと日本はつぶれるんだというようなことで、気合いを入れております。その40年間には、高校、今の中山先生と長崎で一緒になりました。県教育センター、あと非常勤で予備校、看護学校ですね。今、県の研究者等授業訪問で先日、上五島の小学校、生月の小学校、来週水曜日に対馬へ行きます。小学校で授業をします。

今から申しますのは、私が肌で感じたことを申します。私、国(文部科学省)の職員なんですけどね、私の反省も含めて文部科学省も(見通しが悪い点など)少したるんではと思うんですよ。まず、今、申し上げたいのを三つ申します。一つ、児童生徒の能力アップ。いろいろ言う前に力をつけんとだめなんですよ。具体例を申します。佐世保で花園中学校ができたのが昭和30年代の終わりと思えます。文部省の一斉学力テスト、長崎県一ですよ。文部科学省は、そのときは文部省なんですけど、文部省は、

「花園中学校は、長崎市内のどこにあるやろか」というように言ったそうです。すばらしい花園中学校ですよ。県一なんです。そういうふうなことでですね、じゃあどうしたらいいかと申しますと、先生方に知的興奮を起こさせる。先生方に授業で、知的興奮を起こさせるような授業をしてもらわなければいけない。そのためには、まず、先生方が知的興奮を起こさなければいけない。嫌々教壇に立ったらだめなんです。私、授業大好きで39年間風邪で休んだこと一遍もないんです。教壇に立てばよくなるんです。学生は迷惑してるかもわからないですが。それが第一点。

二点目、教員のレベルアップです。児童生徒のレベルアップっていうのは、教員のレベルアップが必要なのです。そのためには、佐世保に教育センターがありますから、ぜひ、それを充実してもらいたい。それと児童文化館がございます。第一点目、児童生徒の学力・能力アップ、二点目、教員のレベルアップとそのための研修、このためには、佐世保の教育センターを充実させる。

三点目、基本的生活習慣の確立、心の教育、国際化をやる。やっぱり、きちんと教育をやらなければいけない。特に、基本的生活習慣の確立、これできてないっていうのは戦後50年の誤った民主主義のツケなんです。これを取り戻すためには、今からやっても、25年から30年かかるんです。そういったことで、この佐世保市の教育を考える市民会議を光武市長さんが提案されたとお聞きしております。ぜひ、これを成功させて、具体的にやってもらいたいと思います。ずっと教育に携わって、文部省関係の研究発表をするときがあって職員の方と話しをするのですが、文部省の職員の方がこのように言うんですよ。「長崎県はやりやすい」と。文部省のとおり。ぜひ、文部省を打ち破るような、新しいことをやってほしいと言われるけど、すべて研究発表は文部省のとおりと。だから、ぜひ、佐世保の教育を、佐世保しかできない、光武市長さんのときにしかできない教育をぜひやっていただければと思っております。

以上、ちょっと長くなりました。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございます。

それでは続きまして、糸永委員にお願いします。

【委員】

糸永でございます。

私、烏帽子に住んでおりまして、山からおりてきて思いがけず強い雨で安全運転をし過ぎて遅刻してしまいました。大変申しわけありませんでした。

私は、1960年生まれでちょうど高度成長時代に生まれた母親です。現在、小学校6年生と3年生と幼稚園の年長の3人の母親で、もうまさに子育て真っ最中で、今日も御飯つくって、もうばたばたしてやってまいりました。毎日毎日3人、単発で仕事もしておりまして、毎日が必死っていうのが正直なところで、自分をあまり客観視できないっていうか、私これでいいんだろうか、いいんだろうかと毎日迷いながら、悩みながら子育てをしております。第1子が生まれたときは、どうやって育児をしていいのかかわからずに、子どもと一緒に泣いたこともあります。夫はもちろん仕事ですし、もちろん協力してもらうところは協力してもらいましたけれども、自分は力のない母親だな、だめな母親だなんて思いながら、でもネットワークもなく孤立したまま子育て

てでした。その当時はもう狭いアパートに住んでおりましたので、幼児虐待とかそういうのには至りませんが、育児ノイローゼっていうのが、もう他人事ではないって、私はまさに今、育児ノイローゼではないだろうかっていうように自分を感じることもありました。その中で、いろいろ子どもに教えられて親として子どもと一緒に成長して親になるんだなあって、何か最近やっとそういうのが実感として湧いてきております。先生だったりお友達のお母様だったり、先輩のお母様だったり、いろいろな方のお話を聞いて、支援していただいて子どもを育てているわけで、もちろん市の行政の方もです。うちは烏帽子分校っていうところで、子どもが12人なんです、先生が3人いらっしゃって。多分もういろんな面から見てこんなマイナスな学校はお金ばかり要って、そういう環境ですけど、先生も行政も一生懸命、子どもたちのために、今、新しい家庭科室とかつくっていただいているようで、感謝してるんですけど、家庭においては、家庭教育の大切さって、もういろんな先生からいろいろしていただいて、そうなんだなあ。でも、自分自身もそうですし、周りのお母さんたちも、母親一人で実際子育てをしている、幼児期からですね、赤ちゃんを産んで、妊娠、出産、育児ですね。もちろん御主人は外で働いているし、孤独と戦って、子どもと戦って、何か煮詰まるといって、そういう状況で育ててらっしゃるお母さん、結構多いんですね。だから、何かお母さんたちと一緒に手を取り合って、健やかな子どもが育つように、できるような何かそういう佐世保のものができないかなって、何かちょっとわからないんですけど、一生懸命私も勉強してこの会議でお母さんたちと一緒に手を取り合って子どもを育てていきたいなって強く思ってます。

以上です。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、大宅委員にお願いします。

【委員】

座って失礼いたします。

私、大宅といいます。よろしく願いいたします。手前みそですけど、経験を通してこの会議に反映していきたいと思っております。

公募の動機は、娘の入学からPTA地域の世話役、地域対抗のソフト部から、「西高梨おやじの会」というのを20年ほど以上になりますけど立ち上げまして、親父や家族及び学級がソフト、ピクニック、もちつきなどをしまして現在に至っております。その間、市の青少年センターの一般補導員を10年、民生委員を3期、今日も引き継ぎをしてまいりまして3期目に入るところであります。また、その経験から、7年、8年前には、佐世保地区のPTA大会での市民会館で発表してくれということで、体験等を話しました。私としては、子どもはたった一人なんですけれども、小学校に入ってからすぐ、どういう今後の仕事をしていくのかということ子どもに目標を与えました。それでそのとおりに一応今、薬剤師なんですけど、女性としてやっていくには、またひとりで生きていくためには、昔から言われておりますけれども、技術を持った女性に育ててということ育ててまいったところです。

これからも、先ほども言いましたように、これまでの経験と青少年センター補導員

として得た子どもたちの生活実態など手に入れたものを皆さんの前で反映していきたいと思っています。

よろしくをお願いします。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

続きまして、北川委員にお願いをいたします。

【委員】

北川知美です。座って失礼させていただきます。今、35歳、主人と1歳半の子どもと3人の核家族で暮らしております。今回は、「佐世保の教育を考える市民会議」に参加させていただいて、ありがとうございます。感謝しております。

教育については、日々教育に携わる仕事をしているわけではないので、素人考えしか浮かばずに、とんちんかんな受け答えをするかもしれませんが、思っていることはたくさんあります。この間提出させていただいたレポートとは、少し要旨が違ってしまっているのですが、3分という時間の中で、意見を述べさせていただくとすれば、生活環境と教育機関の関係についてが適切かと思って、今回はそれについて述べさせていただきます。

埼玉から越してきて、8年目なんですけど、主人の実家が世知原で子どもを育てていくという環境面では、世知原は、主人も私も理想の土地だと思って戻ってきたわけなんですけれども、いざ子どもが大きくなって高校進学、大学進学を希望した場合、佐世保の高校への入学は難しいということと、私たちの仕事面においてもいろいろな障害があるということの結論に達して、佐世保に家を構えることにしました。教育機関というものだけに的を絞って考えれば、中央都市の方が優遇されていて選択の幅も広く有利に思えるんです。逆に、恵まれ過ぎているため自己を見失いやすいのではないかという懸念もあります。私は、教育は学問的な知識の吸収ということもさることながら、心の豊かさも学んでいくことも大切だと思っています。知識の吸収については説明は要らないと思いますけれども、心の豊かさについては、具体案を述べるのは非常に難しいと思います。

私ごとになってしまうのですが、我が北川家において言わせてもらえば、本当ならば世知原の実家で主人の両親と子どもとともに暮らすという環境を整えられればベストなんですけど、聞いた話によりますと、北松地区から佐世保への進学は、狭き門になっているということを聞きました。本当に、向学心のある子が住んでいる地域とか場所によって進学が困難になるという状況が何とか改善されないものかなということをお尋ねして、またそれを審議していただきたいと思いました。

まだ意見が私の中でまとまっておらないので、何だかこんな感じでいいのかなという思いでいっぱいなのですが、いろいろな方々の意見をお聞きしながら、また考えを広げていきたいと思っています。

ありがとうございました。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

それでは、続きまして隈部委員にお願いをいたします。

【委員】

皆さん、こんばんは。隈部です。一般公募で選出されました。座って失礼いたします。

私は、「豊かさの基準を考える」ということで、公募の原稿を書きました。これは、子どもたちというより私たち親の方が考え直さないといけないことだなと思っております。現代社会においては、豊かさ、幸福感を目に見えるもの、例えば、お金ですとか、品物、成績などに追い求め、いつのころからか、目に見えない、心の豊かさというものを置き忘れてしまっているように思います。たとえ幾らお金や物があっても一人だけでは生きていない、先ほど、どなたかおっしゃいましたが、生かされているということに着目しないといけないと思います。それから、自分の責任において・・・という「自己責任」の部分忘れて、何か原因を他のものに求めすぎているようにも感じます。専門部会でお話の折、専門家の方がいろいろ言われるのは本当にもっともだと思んですけど、あまりにも専門的になり過ぎるばかりに、その小さいところに目が行き過ぎて、森を見ずして木を見るといいますか、全体像を踏まえてからの部分的でない、部分的を幾ら重ね合わせても、全体像にはならないと思うんですね。これは私ごとですが、春先に大病をいたしまして、自分のこれからというものを考えましたときに、子どもが今、中学1年生と小学校3年生ですけれど、私が死んだらどうなるだろうと思いました。周りは、まだ子どもが小さいんだから、治療できる範囲のことはしっかりしてと言われましたけど、子どもを置いて死ねないというんじゃないかと思うんですね。やはり、今は、確かに情報はたくさんあると思います。もうあふれんばかりの情報の中で、子どもたちはどれをとった方がいいのか、何かそれも迷ってるんじゃないかと思います。その中で、私が考えましたのは、もちろん知識は大切ですが、それを生かす知恵を与えないと、やはりこれから先、親がいつ死ぬかもしれない、そういう不安だけを持って育てていくわけではありませんが、やはりそうなったときに、今大切に生きるっていうことをですね、たとえ明日でも10年後でも今の延長でしかないわけですから、子どもたちがいかに今を大切に生きるか、そしてそれをどういうふうにしたら、生きていけるかという知恵を与えてやるのも親の役割じゃないかと思えます。まだ、それこそ一主婦が、この前からいただいた宿題ですとか、本の内容を見て、それこそ一主婦がこんな大ごとに入って大丈夫なのだろうかと、皆さんの足を引っ張るばかりじゃないかなと思っておりますが、皆さんの御意見とか参考にさせていただきながら、これからも自分の子育てに、まず自分が勉強するというつもりで参加していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

- 休憩 - (5分)

今度は近藤委員に、御意見の御説明をお願いいたします。

【委員】

すみません。座って失礼します。

市民代表ということで、ちょっと自己紹介からさせていただきます。

佐世保市の北部の方で、畜産の仕事をしてます、牛、和牛の飼育です。それで 20

歳と18歳と13歳と3人の子どもと100頭近くの牛の母親をしています。年明けて、成人式を迎える長男が、小学校に入学すると同時期ぐらいから、地区とか学級の評議員をずっと小、中、高、3人もいればどこかで学校と少しずつでもかかわってきまして、今は末っ子が中学校1年生ですので、中里中学校の方で生活環境部の評議員として参加しております。それと、個人としては長崎県のグリーンアドバイザーということで、農村生活をよりよくするために、いろいろな会や講演会などにできる限り出席しまして、地区のグループ活動などに参加し忙しい毎日を送っています。そういう皆様方とちょっと環境が農家という環境で違いますので、そのことを通しまして、私の子育てについてお話したいと思います。

我が家の子育てということで、まず、子どもが通知表とか成績表をもらってきたときには、左側の成績の欄よりも、右側の子どもの学校での生活に対する評価を見て、子どもを褒めるようにしてきました。学校を卒業するときには、楽しかった、本当に楽しい学校生活だったって思えるような、学校生活を送ってほしいと思って、そういう子育てをしてきたつもりです。卒業式の日には、みんなそれぞれに、小、中、高を卒業する子に、「学校どうやった」という質問をして、それに対する答えが3人とも、「楽しかったよ、おもしろかったよ」と、「勉強せんやったばってん」という答えでした。それでも、親としてはやっぱり楽しい学校生活っていうことを送れたということには、ほっとしています。

それと、そういうちょっと変わった勉強重視じゃなくって、生活重視の母親ですので、たとえテスト期間中であっても家の仕事が忙しいときには、子どもの方から「何か手伝おうか」と言われれば、喜んで手伝ってもらいます。その中で、子どもたちにも自分で考え、自分で行動できる力を身につけてほしいと思っています。

それと、この募集に直接参加しようと思ったきっかけとしましては、18歳になります長女、真ん中の子ですけれども、高校で、登校拒否等いろいろなことがあり、ちょっと学校に行けなくなって中退しました。去年ですけれども、そのことがありまして、私の方としても、いろいろと母親としても経験しましたし、学校に対する考えもいろいろありますし、我が家の子育てが本当にこれでよかったのかなというところもあったものですから、皆様方と意見を交わしながら自分も勉強していきたいと思って参加させていただきました。

これからも、よろしく願います。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

それでは、続きまして高橋委員にお願いをいたします。

【委員】

こんばんは、失礼します。座らせて言わせていただきます。

一応、公募委員として応募の動機のとときに書きました作文を読まさせていただいて、自己紹介をかねたいと思います。

私には、小学校6年生になる娘が一人おります。やっと念願かなって高齢出産でしたが、母親になれた喜びは何物にもかえがたいものです。子どもがいればこそ一緒にたくさんのお話を学ばせていただきました。幼稚園に入ってから、PTA活動や地

域のお母様方と子育てサークルをつくり、いろんな情報交換や励まし合いの大切さを学びました。そんな中で感じることは、母親の思いを受けとめてくださる方が身近にいらっしゃらなく、母親が孤独であったり自分の子どもにだけしか、かかわれないお母様方が多くなっていると思います。今のいろいろな社会情勢の中で親もストレスが吐けないでいる分、家、弱者の子どもたちにその多くが向けられてはいないでしょうか。子どもたちは敏感です。今の子どもたちのいろんな問題行動のすべては大人社会の反映でしょう。この佐世保市の最高の財産は、21世紀を担う子どもたちです。自然環境豊かなこの佐世保だからこそ、きっとすばらしい人材が育つと確信します。

今回、佐世保市がこのように一般市民の声を「教育を考える市民会議」として結集されることは大変すばらしいことと思います。従来 of 社会のための教育から教育のための社会へと佐世保市全体が、また日本がそういう方向性へ動き出すことが大切ではないでしょうか。私には学歴も何もありませんが、一人の母親として子どもを慈しむ側の立場で、何かお役に立てればということで参加させていただきました。

今、こういうことで応募させていただいたんです。お隣りにいらっしゃる志方先生には、子どもが小さいときからいつもお世話になっております。ありがとうございます。地域で今、子育てサークルをやっております。就園前の子どもさんとお母さんのサークルで、やっぱり、町からちょっと離れたところにいるものですから、まず、地域の方が新旧がかなり落差があるんですね。古くから住んでらっしゃる方、新しく団地の中に入ってこられた方、だからそれに溶け込めないでお母さんが孤独になっている方が多いです。また、家庭の中もいろんな問題がいっぱいありまして、先ほど蛭川委員がおっしゃいましたけれども、子どもたちの背後には本当にいろんな荷物を抱えていらっしゃる家庭がいっぱいあるんだということを痛切に感じます。だからやっぱり、お母さんを私たちは地域で守りながら、お母さんと仲良くして一緒に子どもを仲良くさせていこうと、学校に入るまでのお母さん同士が仲良くなれば、狭い地域の学校ですので、1年生になってからも、きつとうまく仲良くなれるんじゃないかっていう思いですね。

それから、もう一つ午後からのサークルは、地元の教職のOBの方が中心になられ近くの公民館をお借りして、ちょうど学童保育みたいなことをやっていただいております。みんなの遊びの場になっておりまして、「本当にふだんは、帰ってから一步も出ないような子どもがその日になると、もうかばんを放り出して行くんですよ」ってお母さんがおっしゃっていただけるぐらい、楽しみにしていただいております。今、佐世保市内も児童センターとか児童クラブとかがありますがけれども、まだまだ不十分ですよ。だからやっぱり地域で、そういう安全に子どもたちを預かれる場所っていうのを、校区内に一つぐらいはもうぜひつくっていただきたいっていうのを母親の代表としてですね、ぜひお願いしたいなと思っております。

また、今後いろいろ皆様と勉強させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

それでは、徳勝委員にお願いいたします。

## 【委員】

はい。座って失礼いたします。

徳勝宏子と申します。高度成長期の豊かな社会の中で生まれ育ち、共通一次が始まって2回目の試験を受けたそういう世代です。今は、佐世保の中心部に住んでおりまして、3歳の女の子と小学校2年になる男の子の母親でございます。働きながら「CAPさせば」という子どもへの暴力を防止するアメリカ生まれのプログラムをいろんな学校に出前していく活動をしています。諫早の女兒殺害事件・池田小学校の児童殺傷事件があったりで学校の安全、児童の安全ということが強調され始めてきて、急に依頼がふえまして、今週は、東彼杵と北松をあわせて3件連続してワークをしてまいりました。

私がそういう市民活動をするようになったきっかけが、今、小学校の2年になる長男の子育てだったんですね。そのころは中心部のマンションに住んでいて、私すごく子ども好きで、勇んで子どもを連れて外に出るのですが、公園に行っても本当にだれもいないんですよ。だれも声をかけてくれない。そういう地域が佐世保の中にはいっぱいあります。ましてその中で地域で孤立しているお母さんたち、糸永さんもさっきおっしゃってましたけどたくさんいます。私はそれを見て、自分も子育てが辛かったし、みんなどうしてるのかなと思って、「グループまんま」をつくって、託児付きの育児講座をずっと5年ぐらいやってきました。その活動を通して、お母さんたちにたくさん出会ったんですね。今のお母さんたちって、本当にいろんな問題を抱えていると思います。

さっき、子どもたちの問題として、指示待ちのお子さんが多いという話もありましたが、子どもと一緒に遊んでるお母さんたちを見てると、やっぱり先に、先にとって手が出ちゃう、口が出ちゃう。子どもはけんかしようとしてるんだけど、それをその親が、まあまあって感じでやってしまうと、そういうことって、日ごろの日常生活の遊びの中にたくさんあります。それから、切れる子どもがたくさん出てるという意見もありましたが、親も切れるんですね。私もそうなんですけど「ブチッ」って音がしちゃうんです。そういうお母さんがたくさんいます。私は、途中から子どもを保育園に預けて保育園で働いてるお母さんたちとのつき合いもあるんですけどね。このお母さんたちは非常に忙しいです。余裕がなくて、「親も子もタイヘン」という感じがする。だけど、救いなのは、お父さんが結構子育てに参加するようになってきて、うちの保育園ではいろんな行事ごとにお父さんがすごく頑張ってきている、そういう面も出てきてると思います。

それで2年前に、長男が小学校に上がって、学校というものと初めてつき合うようになってきたんですね。そしたらいままでもこの地域は子どもは少ないと思ってたのが、結構いるんですよ、周りにいっぱい。やはり、子どもを通して学校を通して地域が見えてくるところがたくさんあります。ただ、見えてくけどお互いがなかなかつながらない状況があります。こういう活動をしてるものですから、いろんな悩み事相談を受けるのですが、ちょっと心配になる子がいたりすると、それを救い上げるためにどこに相談に行けばいいのとか、学校がどうフォローしてくれるのか、みんな不安を抱えたままバラバラに存在しているという状況です。ただ地域によって随分様子違うの

かなって思います。うちの校区は地域懇談会を開いても参加者が少なく廃止の方向で検討していますが、大野地区は子育てサークルも元気だし、子どもと一緒に何かディスカッションやったり、いろんなユニークな活動をしてらっしゃる。だから、いろんな工夫とか仕掛けとか場とかがあれば、何か変わっていくんだろうと思います。今のお母さんって本当に複雑で、ちゃんとしつけをやってないから切れる子どもがとかいる言われるんだけど、じゃあしつけしなさいって、ただそれだけ言われたら、今度は虐待に走りかねないです。だから、そういうお母さん、それからお父さんがもっと地域の中で、いろんなことを語り合ったり学校を支えていける、何かそういう仕組みづくりをこの会議の中でできたらすごいなと思います。なかなか難しい問題ですが、こんないろんな知恵を持った方がたくさんいらっしゃるの、方向性が見えてくれればいいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

**【会長】**

どうもありがとうございました。

それでは、永江委員にお願いいたします。

**【委員】**

座ったまま失礼させていただきます。

私は、早岐地区に住んでおります永江登代子と申します。よろしくお願いいたします。

市民会議の委員募集を知りまして、私の思いを原稿用紙1枚に一生懸命つづりまして応募させていただきました。私は教育関係の専門家ではありません。一人の主婦として母親として、このような場に参加させていただいていることに本当に心から感謝しています。

私は、22歳とそれから15歳中学3年生、13歳中学1年生の3人の男の子の母親です。これまで主にPTAの活動が主体なんですけれども、子どもたちや子育て真ただ中のお父さん、お母さん方と触れ合い、活動していく中で、数多くの経験をさせていただきましたし、その中で抱いた疑問や思いの数々もたくさんあります。不登校の子どもを持った御両親から御相談を受けることもあります。そういったことを何とか伝えることができたらと思っています。国民会議の河上先生が、下々という言葉を使っておられました。私は、もうまさしく下々の子育ての現場で悩んで、それこそ私はもう戦ってきたと思っています。子ども、子育てで戦ってきたと思っています。そういった戦ってきた者として、皆様方と一緒に考えていけたらと思っています。

私は、先ほどからいろいろ話がありますが、子どもは変わったと思っています。そして、子どもを変えた、変えているのは私たち大人だと思っています。今、子どもの実態はすべて大人の責任でありまして、子どもの教育と同時に大人の教育も必要ではなからうかと考えています。また、私は、学校の先生方と触れ合う中で、教職員の方々の採用試験に臨む臨探の先生方の苦悩を身近に目の当たりにしました。現場で子どもたちから慕われ、授業もわかりやすい、こんないい先生なのに受けても受けても正式に採用にならない。これって一体何なんだろうっていうような経験もさせていただきました。そういったことを今の現状は、本当にいろいろ考えることがたくさんあります。今の子どもたちのこういった状況は、自分たちの責任であるということを私たち

自身が心から反省して謙虚に話し合っていかなければならないと思っています。本市における教育のあり方について考えるっていう市民会議ですが、これからどういう方向で話が進んでいくのか、今のところまだちょっとはっきりわからないところもありますけれども、私の持っているエネルギーを精いっぱい注いで傾けて大人が変わるべきことをしっかり話し合っていきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。(拍手)

【会長】

ありがとうございました。

それでは、村尾委員にお願いします。

【委員】

村尾厚子と申します。私は大学1年の娘と中学3年の息子を持つ親です。そして、一般的にいう団塊の世代です。私の周りの仲間は、ほとんど子育てを終えまして、子どもたちがちょうど結婚期へとさしかかっている中で、私はやっと子育てが一段落して今は親の介護といいますが、私の親は明治40年生まれで、父親が94歳、母も94歳でちょっと今、母が病床に伏しておりますので、看病の日々に追われてるんですが、その中で、何か自分自身の目標がないというか、悶々としてましたときに、「市政だより」で「佐世保のこれからの教育を考える市民会議のメンバー募集」というのを見まして応募いたしました。常日ごろから、不登校とか学級崩壊、児童の虐待、学力の低下、佐世保でいうと、高校の合同選抜制度などに大変疑問を感じておりました、また、このたび「ゆとり教育」ということで、何か佐世保で私は戸尾小学校、旭中学、佐世保北高と、生粋の佐世保っ子として生まれ育った私としては、教育のことを何とかならないのかなあという疑問を持っておりましたので、応募した次第です。

第1回の会議に参加しましては大変緊張いたしました、何かちょっと場違いだったんじゃないかなあというふうに思いましたけども、今日、皆様の御意見をいろいろ伺いまして、私がいままで子どもを育ててきたこととか、佐世保で生まれ育ったことを立場からしっかり頑張って意見を述べたいと考えております。おかげさまでこのチャンスをいただきまして、この2か月間、教育とか学校に関するいろんなことを先月も与えられた本を読むのに大変手間取りましたけれども、それとか「通販生活」の中で「ゆとり教育のアンケート」ということとか、「文芸春秋」12月号の「教育、教育、そして教育」ということとか、NHKスペシャルの「学校を変える」などいろいろなことに接することができまして、ほとんどがこの4月から実施される「詰め込み教育からゆとり教育へ」ということがテーマになってたと思います。その中で、学校5日制を実施するに当たって、円周率を3.14をおよそ3で教える、何てこんなくだらないということが私の感想です。それと、小学校5年生で習ってる台形とか多角形の面積計算もなくなって、また小学校6年まで書けなくてもよくなる漢字181字っていうのに至っては、もう私は何をかいわんやの心境でございます。日本語の美しさとか日本の文化をなくそうっていうことなのかっていうことが一つと、その上、英語を小さいうちから教えるために総合学習の時間に英会話をふやしていくとか。私も3年ほど外国で暮らした経験がありますし、主人は15年間アメリカで生活をしました。その中で、やはり日本のよさっていうのを勉強した上で外国に行くのがもう絶対的な

ことだっていうのが私たち夫婦の考え方です。ですから、ぜひ日本語とか日本の歴史、日本の文化っていうことをもっと小学校で教えていただくっていうか、それに取り組んでいただいて初めてグローバルな人間が育つと考えております。佐世保っていう環境は、外国に大変近いところですので、なおさら、日本のよさを知った上で外国へ出て行くのがいいことではないかという考えです。

ですから、ゆとり教育っていうのをするには、いままで以上に先生方の力にかかってくると思うんですね。そうしたときに、今のままの考えで果たしてうまくいくのかなっていうのが、小学校を終えた親としての考えです。中山校長先生とは子どもが3年間お世話になりました、いろいろともう本当に勉強させていただきました。その中で先生は、100%、年に一度の総会にPTAが参加することを、出席を目指そうっていうのを打ち上げられまして、もうほとんどの父兄の方が年に1回の総会に出席なさって、総会に出席するっていうことは、学校の考え方、先生たちの顔が見えるっていうことなんですね。ですから、皆さんもぜひ遠いところから見るのではなく、学校に参加されて、そして教育を特に不安に思ってるお母様方は、もうなるべく学校に参加され、学校側もぜひそれを受け入れて地域とともにやっていくというふうにされたら少しはよくなるっていうか、お互い相互作用でよくなるんじゃないかというのが私の意見でございます。(拍手)

【会長】

どうもありがとうございました。

あと、地域団体関係の委員の先生方の御意見発表もと考えておりましたけども、時間が8時45分を回りましたので、恐縮ですけども、これは、次回が講演会になっておりますので、翌年になりますが1月のこの会議に延ばさせていただきたいと思えます。

よろしゅうございますでしょうか。

それでは、そういうことでお受けいたします。何か御意見が……。

【委員】

いいえ。時間の都合でしょうがないですねっていうようなことです。

【会長】

それでは、残りの時間で協議ということに入らせていただきたいと思います。

一つは、会議の進め方でございます。この間御意見を出していただきましたので、その「委員意見集約」の中に、委員の皆様からいただいた意見も入っておりますので、まずそれをちょっとごらんをいただきたいと思います。

一番最後のページに、「会議の進め方」というのが入っておりますが、これを大体集約をいたしますと、多くの委員の皆様の見解では、「全体会を数回重ねる中で、幾つかのテーマに絞り、それを設定した分科会で論議を重ねて集約をしていく。さらに、分科会と全体会は併用しながら協議・研究を進める」というようなこととなります。いろいろ御意見出ておりますけども、このように要約をさせていただいてよいかどうかということ、ここでお諮りをお願いさせていただきたいと思えます。

何か御意見ございましたら、どうぞお願いをいたします。全体会を差し当たってはもう少し続けさせていただくということでございます。その後、テーマをどういうふうにして絞っていくかというのが、これも毎回私自身も悩ましいものと思っております。

すが、これも全体会の方で今から御相談をしながら分科会の方に持っていくというような形にしてよろしいでしょうか。

特に御意見がなければそういうことで進めさせていただきます。

それから、12月の会議は後で御説明をいたしますが、その次の1月の会議の進め方ということになります。本日、地域団体関係の委員の方々の御意見を出していただくことができませんでしたので、1月の会議では、これをぜひ出していただきたいと思えます。それとあわせまして、学校についての実態を知りたいという御意見が多く出ているように思えますので、1月、2月の会議で学校の先生方に御相談の上、お1人20分ぐらい現状の説明をお願いいたしまして、それについても全体会として討議を始めたというふうに思っておりますが、いかがでございましょうか。

よろしければ、会長、副会長、推進委員会の方で発表者については御相談をいたしまして、お知らせを申し上げたいと思えます。

よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

それから、もう一つ、全体スケジュールということで、先ほど資料の中で、御説明がございました。これは市民会議の平成14年度の予算を確保するために、こういう全体スケジュールを一応持っておくということが目的だということでございます。そういうことで、会長私案というようなことで作成をさせていただいております。それにつきましても、何か御意見がありましたら論議をお願いいたします。具体的には、この間も申し上げましたけれども、会議の進みぐあいによりまして、また御意見を伺いながらこれが変更され得るものであるということをお承りいただいた上で御承認していただければというふうに思えます。

よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

#### 【委員】

今日、3分間だったんですけどね、事務局の方でチャイムで2分30秒目に鳴らすとか、やっぱり何か方法をとられた方がいいかと思えます。私も少し3分はオーバーしたかもしれませんけれども、学会とかではぴしゃっと守りますからね。だから、だんだん今の調子でいけば、今日も結局あれでしょ、何人かの先生を来年に回すだから、今日言いたいというようなことを言えないんですよ。だから、ぜひ時間を教えていただくようにしていただいた方がいいと思うんですけど、皆さんどんななんですか。

#### 【会長】

3分という設定が、今日私自身は司会をしておりまして、いろいろいいお話があり3分では無理だったかなという印象を逆に持っております。でも、次回も一応3分ということで、お話をいただかないことには不公平になると思えます。学会並みにきちんと制限していくというのは、私自身にはこういう会議では少し抵抗がありますが、委員の皆さんの御良識で3分というふうに申し上げておりますので、そこらを勘案してこの次も御意見を述べていただければと思えます。大事なことは、やっぱり相互に意見の交換ができるということでございますので、ほかの方のお話になる時間を占領しちゃいかんと思えますけれども、許される範囲であれば、少し大目に見ていただけれ

ばありがたいと思っております。

【委員】

該当者に意見を言うみたいになるんですけどね、やっぱり今日、3分だから3分が4分になるのはいいですけどやっぱり今日30名、原田先生がいらっしゃいませんから29名ですか、29名の方が今日、自分の気持ちを言おうと思ってらっしゃるんですよ。だから、それはやっぱりきちんとできるようにお互いが注意せんといかん。しかし、しゃべり出したらですね、皆さんはしゃべりたいこといっぱいあるから、強制的にでもやっぱり切らんとだめと思うんですよ。その後、またやればいいから、そうせんとですね、今日しか、今日、自己紹介しようと思って張り切って来てらっしゃる方に失礼ですね。また来年なんて言ったらですね。ちょっと……。ぜひ何か事務局で考えていただきたいと思いますよ。

【委員】

私もその意見に賛成ですね。やはり短く要約してそして顔見せですから、ここで言う中の内容っていうのは重複している意見がかなりあるように思います。ですから、やっぱりここでは的確にですね、やっぱり3分以内にまとめられるように事務局の方でちゃんと処理していただき、そして、その次の議論の中でですね、十分に時間を取っていただくというのが本当じゃないかと思います。

【会長】

ただいま、貴重な御意見いただきましたので、1月に御意見を述べられる方はひとつ要約して発表いただければというふうに思います。確かに簡潔に示せるということもごさいますので、まとめてお話しただければということです。

それでは、ほかに何かございませんでしょうか。

それでは、次回の12月18日につきましては、先日の御案内のときにも申し上げておりますが12月18日火曜日に教育講演会ということになります。会場はアルカスSASEBO中ホール、時間は16時から18時ということで、お茶の水女子大の名誉教授の森隆夫先生がいらっしゃるということでございます。時間が16時ということで、いつもの会議の時間と違っておりますけれども、御都合がおつきになる委員の方々は、ぜひ御出席をいただければありがたいと思います。その講演会が終了いたしましたら、「委員交流会」という形で、懇親の機会を持ちたいと思っております。18時30分から20時という予定でございまして、これについては、詳しくは事務局の方から通知する予定です。

それでは、以上で協議は終わりということでございます。長時間大変お疲れさまでした。ありがとうございました。